

e-dream-s 通信

No. 98 発行：2009年4月12日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

皆さま、4月号をお届けします。新たなプロジェクトの計画が示され、山田理事からはサンフランシスコ便りが先月分と合わせて2本届いています。どうぞお楽しみください。

目次

| | | |
|-------------------------------|------|------|
| 1. アラフィーの4月 | 中川房代 | p. 2 |
| 2. 締め切りのある人生 | 辻 荘一 | p. 4 |
| 3. カンボジア英語教育支援プロジェクト (案) | 井川好二 | p. 5 |
| 4. ハーシーとゴディバ | 塚本美紀 | p. 9 |
| 5. 生きてく強さ | 仙崎裕右 | p.10 |
| 6. <サンフランシスコ便り 17号> 英語話せる?! | 山田昌子 | p.14 |
| <サンフランシスコ便り 18号> またまた歯のトラブル発生 | 山田昌子 | p.16 |



イースターのディスプレイ (San Francisco North Beach のパン屋にて。
2009年4月 山田昌子氏撮影)

アラフィアの4月

中川房代

実は、3月末から4月初め、所謂春休みの期間は、私にとって1年の中でもちょっと憂鬱な時期なのである。学校でも会社でも、卒業や転勤、異動があり、否応なしに別れがやってくる。せっかく、慣れて、仲良くなった人たちとの別れは寂しい。それまで作ってきた自分にとっての快適な環境から抜け出るのはなかなか勇気が要る。勿論、悲しいばかりではなく新しい出会いもあるわけで、それはそれで楽しみではあるのだが、人見知り人間関係を作るのに時間が掛かる私は、年度当初のこの時期に特に苦手意識がある。

まあそんな個人的なことはどうでもよくて、例に漏れず、私の職場でも退職、異動があつて、スタッフの平均年齢がまた一段と若くなった。ほんの数年くらいまで職場では若い層だったのに、一気に年長の層に突入して、職場での位置や役割が一気に変わってきている。これまで助けてもらうことが多かったのが、気が付くと助ける側に立たされていることにとまどうことも多い。自分の仕事さえきちんとしていればいいというだけではなく、周りを見て自分の行動、立ち位置を考えることも多くなっている。自分がどう動くのが皆のために一番よいのかを考えるようにしよう！と心がけてはいるのだが、何だか落ち着かない。アラフィアのこの年になって、やっとそんなことに気づくなんて、皆さんに比べたら随分遅いのかな、とも思うけれど...ね。

e-dream-s は2000年3月に産声をあげた。既に丸9年が過ぎたことになる。5月末～6月の初めに開催予定の理事会は第31回、8月の定時会員総会は第10回を数える。

NPOが何たるかもよくわからず、役所に問い合わせても電話を次々に違う部署に回され続けるという状況だった当時から考えると、現在(2009年2月末)のNPO数は全国で28,394団体、寄付控除を受けられる認定NPO法人数も100団体に迫ってきた。今は中学校の公民の教科書にも堂々と登場している。こんな社会状況を誰が想像していただろう？

e-dream-sも教育に関連した社会貢献事業をしたいとの思いから、教育用写真アーカイブ事業、ECAPを始め様々な海外プログラムの企画・実施などを行ってきた。特にECAPでは韓国の英語教師・英語教員団体と6年にわたって取り組みを続けることができ、その中で私たちも多くのことを学ぶことができた。研修の場の提供、という意味でも大きな成果をあげてきた。教材テキストの発行を始め、助成団体からの支援も取り付けることができるまでになった。

設立10年目の年。私たちは今後どうしていくのか、どの方向に進むべきか、「これまでの10年」を振り返り、「これからの10年」を考えていく時期に来ている。“何をどうしたらいいかわからないが、まずできることをしていこう”ではなく、“きちんと将来設計をしながら、計画的に進めていくべき”時期にきたのだろう。

何だか、e-dream-s の今と、私の職場での自分の役割は、状況が重なる気がしている。しっかり考えて行動しなければ！

第 31 回理事会では、e-dream-s の「これまで」と「これから」についても論議をしていきたい。また、念願だった「国際社会への貢献プロジェクト」として実現できそうな展望がでてきているのが、「カンボジア・奨学金プロジェクト」である。カンボジアのソコム先生が日本在住となり、一緒にプロジェクトを進めたいと言ってくださっていることも大変幸運な巡り合わせである。このカンボジア・プロジェクトについても、具体的な計画を立てていく理事会になる予定だ。皆さんの貴重なアイデア、ご協力をお願いします！

締め切りのある人生

辻 莊一

3月から4月にかけては人事異動の季節である。同僚が去り、新しい同僚がやってくる。同僚が去るのは転勤が一番多いが、最近では定年退職が増えた。

定年退職すると新年度の離任式や歓送迎会で挨拶をすることになる。挨拶は一様に感謝の気持ちを述べるが、他は様々である。定年後の生活の楽しさを語る人、寂しさを語る人、何を言いたいのかよく分からない人。もちろんそんな式や会には一切来ない人もいる。

私は今まで離任式には行ったことがない。去る者に何が言えるのかという気持ちがある。もちろん感謝の気持ちなら述べてもいいけれど、新年度になってしまえば、気持ちはすでに新しい職場にあるのである。

老眼鏡をかけるようになった頃から、定年退職が現実性を持ってきている。定年退職する同僚の挨拶を聞きながら、新しい職場がない定年退職となったとき自分はどうするだろうか、と考えた。もちろん趣味や余暇に今よりも多くの時間を割くだろうけれど、自分にはこれさえやっていれば、幸せで時間を忘れるというものがない。本も読むしマンガも読み続けるだろうけれど、1日中そればかりとは行かない。ギターも弾くけど、人前で発表する予定はない。趣味で英語を教える？いや、そんなニーズがあるとは思えない。これからこれさえやっていれば全てを忘れられるという趣味が出てくるのだろうか。望み薄である。そんなものがあるならもう既にやっているはずだ。

しかし我を忘れて何かに取り組むということがないわけではない。授業の準備、会議の資料、e-dream-s の原稿。趣味として楽しくやるわけではないが、やれば、それなりに楽しんでできるしやりがいもある。つまり自分には締め切りが必要なのである。それも自分が決めた締め切りではなく、既に決まっている或は人が決めた締め切りが要る。守らないと人に迷惑をかける締め切りがあるということは、社会と繋がっているということだ。そしてそれはできれば、意義のある楽しい仕事の締め切りで会って欲しい。

だから私の定年準備は定年後の締め切りを探すということになるのだろう。もし定年退職で離任の挨拶をすることになったら、新しい締め切りについて話をしたいものだ。今はそれがまだ何になるか分からないが、その中に ACROSS と e-dream-s の締め切りがあるだろうということは間違いない。

カンボジア英語教育支援プロジェクト（案）
Project SEEC: Supporting English Education in Cambodia

井川 好二

【名称】 カンボジア英語教育支援プロジェクト (Project SEEC: Supporting English Education in Cambodia)

【期間】 2009年9月～2019年8月（10年間）

【主催】 NPO法人「e-dream-s」(Osaka, Japan)

【共同】 英語教師のための研修団体「ACROSS」

【協力】 教育法人ACE (Australian Centre for Education)
NGO法人Youth Star Cambodia

【協賛】 本プロジェクトに賛同する企業・個人等

【趣旨】

グローバル社会における英語の重要性は、今後ますます増大し、カンボジアおよびカンボジア人の、経済的、政治的、文化的自立および自律にとって、英語によるコミュニケーション能力の開発は、緊急の課題である。e-dream-sは、姉妹組織であるACROSSとの共同し、現地法人、現地会員、協力者との協働により、カンボジア人の英語能力開発に貢献する本プロジェクトを、企画・推進することとする。

【概要】

本プロジェクトは、NPO法人「e-dream-s」(Osaka, Japan) が、カンボジアにおいて、現地で活動する教育法人「Australian Centre for Education (ACE)¹」およびNGO法人「Youth Star Cambodia²」の協力を得て、カンボジア人中学生・高校生、および地域ボランティア経験大卒者の、英語教育を支援するものである。

¹ Australian Centre for Education (ACE) ACE was established by IDP Education in February 1992 in response to early language training requirements identified by the United Nations Transitional Authority of Cambodia (UNTAC). The school has since grown to become a major provider of English Language Training (ELT) for embassies, NGOs, private companies, various UN agencies and other donors. There are also many individual fee-paying students at the school. <http://www.cambodia.idp.com/ace.aspx>

² Youth Star Cambodia's Mission: To build a just and peaceful nation through citizen service, civic leadership, and social entrepreneurship. Our work is guided by the belief that building a just and peaceful nation is every citizen's

本プロジェクトは、2010年度より、(1) 現在シエムリアップまたはその周辺に在住し、英語の学習意欲が高く、将来カンボジアと世界に貢献する意思と潜在能力のある中学生、高校生で、家庭の経済状態により英語学習が困難であるもの計5名（シエムリアップ）、(2) 現在プノンペンまたはその周辺に在住し、Youth Starによる地方支援ボランティア経験者（プノンペン：大卒・就活中）で、英語の学習意欲が高く、将来カンボジアと世界に貢献する意思と潜在能力のあるもの5名を、選考し、2年間（年間4学期 x 2）ACE (Australian Centre of Education)のプノンペン校またはシエムリアップ校で、英語を学習する授業料を負担する。（TABLE 1 参照）

TABLE 1. SEEC対象者と授業を提供する教育機関

| # | 対象者 | 人数 | 授業を提供する教育機関 |
|---|------------------------------|----|-------------|
| 1 | カンボジア人中学生・高校生 (シエムリアップ在住) | 5名 | ACEシエムリアップ校 |
| 2 | 地方支援ボランティア経験者 (プノンペン在住) | 5名 | ACEプノンペン校 |

なお、(1) に関しては、対象者をプノンペン在住の中高生に変更し、授業を提供する学校を、ACE以外の教育機関とする可能性もあり。

10年計画で、カンボジア人100人の英語教育をサポートすることとする。

【予算計画】 別紙参照

奨学金は、各学期220ドル（ACE授業料）で試算。（変動する可能性あり）。他に選考のための渡航費用、支援者募集費用、支援者への学業レポート費用などを含む。

1口1万円（年間）の寄付を行うことによって、本プロジェクトを支援する支援会員を募集することとし、1年目は、プロジェクトの費用がまかなえる費用150万円（150口）を目標とし、2年目以降は、250万円（250口）を目標とする。支援会員数は、一人あたりが寄付する口数により一定せず、通信費等も変動する。

協賛企業・団体・個人よりの協賛金は、別途予算とする。

【支援対象者の選考】

支援対象者の選考は、年1回カンボジアにて行うこととし、ACROSS、e-dream-sより各1名の選考委員が現地へ赴き、ACE、Youth Star Cambodia、およびe-dream-sカンボジア会員（予定）を含むカンボジア人協力者の協同の下に、選考する。

【今後の課題】

- (1) SEEC支援会員募集計画
- (2) SEEC協賛企業、団体、個人の募集計画
- (3) 助成金取得計画
- (4) カンボジアにおける関係機関(ACE Youth Star Cambodiaを含む)・関係者 (e-dream-sカンボジア会員候補を含む) との交渉
- (5) SEEC国際的広報活動計画 (CamTESOLへの参加、ECAP参加者への呼びかけ、ACROSS Tourでの協力者へ広報を含む)
- (6) 中高生のための日本・カンボジア友好交流プログラム (新規)
- (7) 大学生のためのカンボジアボランティアプログラム (新規)
- (8) ACROSS Cambodia 支部の創設 (プノンペン)
- (9) 教育支援、プログラム拠点「e-dream-s House」設立 (シエムリアップ)
- (10) SEEC第2期計画 プログラム終了者との連携、近隣諸国 (ラオス、ミャンマー等) でのプロジェクト案

カンボジア英語教育支援プロジェクト
Project SEEC: Supporting English Education in Cambodia
予算計画

2010年度

| ITEM | | @ | Term | No. | Total \$ | TOTAL ¥ | Remarks |
|--------------|----------------|----------|------|-------|----------|-----------------------|--|
| 奨学金 | Scholarship | \$220 | 4 | 10 | \$8,800 | ¥880,000 ³ | 5 Volunteers + 5 children ⁴ |
| 選考実施経費 | Transportation | ¥100,000 | | 2 | | ¥200,000 | 選考委員 2 名 渡航費用 |
| 広報費 | Pamphlet | ¥30 | | 5,000 | | ¥150,000 | |
| | Postage | ¥80 | | 2,000 | | ¥160,000 | |
| 会員報告 | Report | ¥100 | 2 | 150 | | ¥30,000 | 半年毎 |
| | Postage | ¥80 | 2 | 150 | | ¥24,000 | 半年毎 |
| 雑費 | | | | | | ¥83,000 | 報告会等 |
| TOTAL | | | | | | ¥1,500,000 | |

2011年度 (およびそれ以降2019年度まで)

| ITEM | | @ | Term | No. | Total \$ | TOTAL ¥ | Remarks |
|--------------|----------------|----------|------|-------|----------|-------------------|--|
| 奨学金 | Scholarship | \$220 | 4 | 20 | \$17,600 | ¥1,760,000 | 10 Volunteers + 10 children ⁵ |
| 選考実施経費 | Transportation | ¥100,000 | | 2 | | ¥200,000 | 選考委員 2 名 渡航費用 |
| 広報費 | Pamphlet | ¥30 | | 5,000 | | ¥150,000 | |
| | Postage | ¥80 | | 2,000 | | ¥160,000 | |
| 会員報告 | Report | ¥100 | 2 | 250 | | ¥50,000 | 半年毎 |
| | Postage | ¥80 | 2 | 250 | | ¥40,000 | 半年毎 |
| 雑費 | | | | | | ¥140,000 | 報告会等 |
| TOTAL | | | | | | ¥2,500,000 | |

³ \$1 = ¥100 とする。

⁴ 10名は全員、本支援プログラム（期間2年）の1年目。

⁵ 20名中10名は、本支援プログラム（期間2年）の1年目。残りの10名は、2年目。

ハーシーとゴディバ

塚本美紀

今はもうしていないが、かつて父はテニスをしていた。子供の頃、いつもは「オジサン」だと思っていた父が、半ズボンでテニスをしている姿を見ると、ちょっとかっこよく見えたものだ。父の通っていた大学、私も同じ大学に通ったのだが、その大学の隣には戦後しばらく米軍キャンプがあった。貧しい敗戦国の、しかも地方の小さな大学にはテニスコートなどなかった。そんなある日、父たちテニス部の学生は米軍キャンプの中に、緑の芝生の立派なテニスコートがあることを知り、英文学の先生の研究室に行って、米軍にそのコートを使わせてもらえよう頼む手紙を書いてもらった。「その時、大学の先生っちゃあ、すごいなあっち思った。お父さんが日本語で言うのをその場でカチャカチャ、タイプで打ってくれたんよ。」と、これまで何度も同じ話を聞いたことがある。その手紙のお陰で、父たちは時々米軍キャンプの中に入ってテニスをするのを許された。その中で、見たもの、経験したことは、びっくりすることばかりだったと言う。トイレに入ったら、紐がぶら下がっていたので、恐る恐る引っ張ったら、水が流れ出して、トイレを壊してしまったのかと、しばらくその場を動けなかったらしい。売店には見たことのない物がたくさん売っていて、コーラやハーシーのチョコレートなどを時々買って食べるのが楽しみだったという。70歳を超えた今でも、父はコーラやハーシーのチョコレートが大好きだ。私がベルギーで買ってきたゴディバのチョコレートよりも、あの少しざらざらしたハーシーのチョコレートのほうがおいしいと言う。私もハーシーのチョコレートは好きだが、ゴディバよりもおいしいと言う父には到底同意できない。

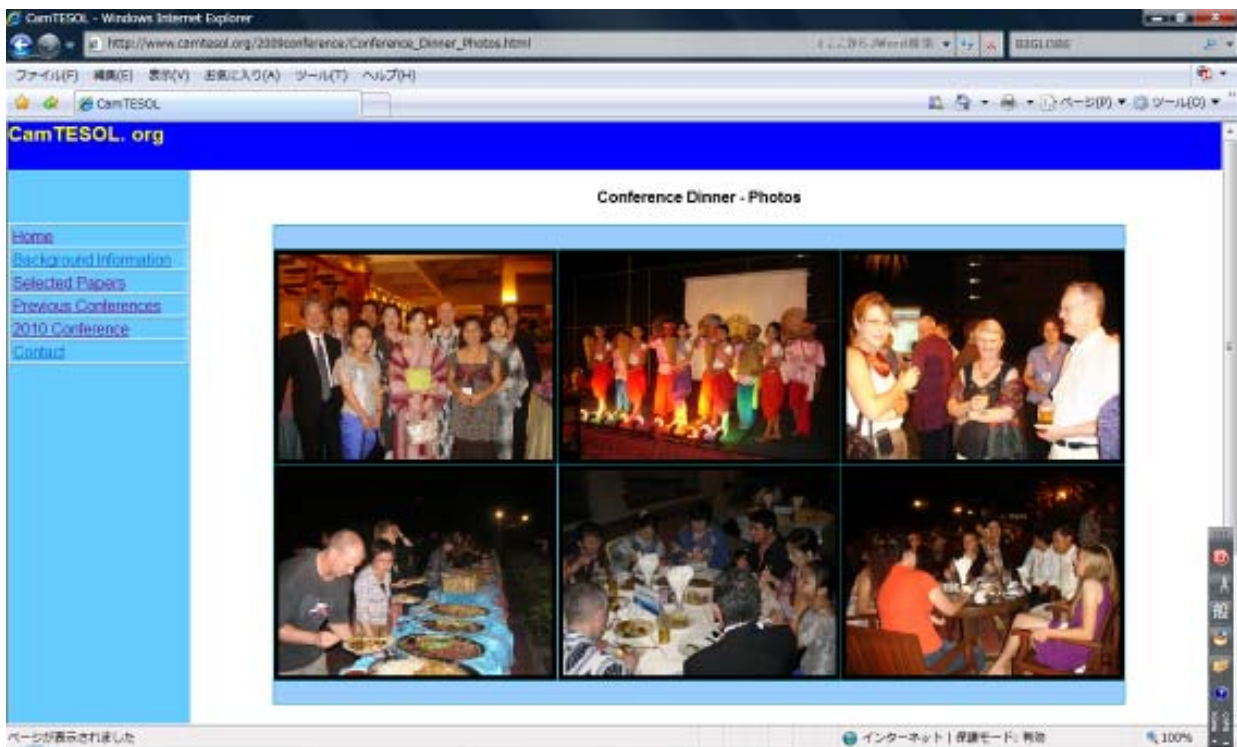
「鬼畜米英」と育てられ、運動会ではトルーマンの張りぼてに玉をぶつける競技に興じていた小学生が、成人する頃には米軍キャンプの中でテニスをし、コーラやハーシーを大好きになるなんて、誰が想像しただろうか。軍の設備を使わせてくれた米軍の厚意、キャンプの中で接した米兵の親切、そしてキャンプの中で目にした豊かなアメリカ文化の一端が、父の心の中に大きな影響を与えたに違いない。だから父にとって、コーラはただの「飲み物」ではないし、ハーシーはただの「チョコレート」ではない。いろんな思いや思い出が混ざり合ってきた、特別な意味を持ったものなのだと思う。

私たちはカンボジアで教育支援事業を始めようとしている。これから多くのカンボジアの人々と知り合い、交流することになる。かつての父のハーシーのように、私たちの間にどんなものが生まれ、そのことを通して、私たちがどのように変わっていけるのか楽しみだ。

生きてく強さ

～二度目の CamTESOL ツアーを終えて その2～

仙崎裕右



(CamTESOL 公式HP より)

まずはニュース！ CamTESOL の公式HP⁶に私たちの写真が掲載されました！ 2009 Conference のページから、写真のページを開けると、パーティの所に、着物姿の集団が写っています、しかも2枚も!! (6枚あるうちの、左上、真ん中下)

カメラマンが私たちの和服姿や、Sokhom のサンポットホール姿を見て、何度かカメラを向けていたのを知っていたので、ひょっとすると載るかもしれない、とは思っていた。残念ながら発表の場面などは紹介されなかったが (100 を超える発表のうち、数枚しか写真が載っていないので)、国際デビューを果たしたような気になって、ちょっぴり嬉しい。

今号は、カンファレンスの2日目、日曜日のフィールドワークの報告を中心にしたいと思う。

⁶ トップページは <http://www.camtesol.org/>。2009 年のページの「Selected Photos」の中の、「Conference Dinner」の項目参照。 http://www.camtesol.org/2009conference/Conference_Dinner_Photos.html



(トンレサップ川の朝焼け)

普段はなかなか起きられないのだが、なぜか旅行中は早起きになる。ホテルのすぐ東側にトンレサップ川(プノンペン周辺ではメコンの流れと合流している)が流れている。ちょうどそこから朝日が美しく輝いている。ホテルの中庭に出てしばし散策。このホテルの名前になっていながら、あまり目立つこともなく、ひっそりと咲いているヒマワリの花を見つけてついシャッターを切ってしまう。



朝食後、お迎えがきて、バンに乗り込む。通り狭しと道いっぱいに広がるバイク、そのわずかなスペースにどうやって乗ったのか4人も5人も群がる人たち。いつ見てもアジアらしさでいっぱいの道路を通過して Sokhom の故郷へ。まだ Sokhom 本人は CamTESOL 2 日目のお仕事でまだプノンペンにいる。その代わりに私たちを案内してくれる親戚夫妻を乗せ、Takeo 近郊にある遺跡、Wat Ta Prohm に向かう。この遺跡は今年のシェムリアップで見たアンコールワットやアンコールトムのものとは違い、大きさで言うとかかなり小ぶりなものではあるが、作られた年代に関してはアンコールワットと同じぐらいで、井川先生の原稿で何度か紹介されたジャヤヴァルマン7世によるものであるらしい。ここでも同じなのが、手に献花や線香を手に車や観光客によって来る子どもたち。一通りの見学を終えて車に戻ってきたころには辻先生や塚本先生が子どもたちと一緒に話をしていて(ように見えた)。大半の観光客に相手にしてもらえなくとも、あきらめずに何度でも食い下がっていくたくまじさが印象に残った。



(左:「ワット タ プローム」 右:物売り子どもたちと交流する辻先生と塚本先生)

⁷ 前号に引き続き、カンボジアとの時差は-2時間。日本時間にするには2時間足してください。

2009年2月22日(日) プノンペン 12:00

その後、車は少しだけ元来た方に戻り、次の目的地、Tonle Bati⁸に向かう。10分ほど走ると、突然目の前に水辺の光景が広がってきた。川⁹があり、水上に小屋がある。ここで昼食をとるらしい。丸太のような、棒のような油断すると落ちこちかねない通路を使って小屋に向かう。



(水上にある「Bati Restaurant」)

食事を待つ間にも色々な人が我々のいる小屋に近づいてくる。すぐ近くで子どもたちが水浴びをしている。沐浴しているらしい女性もいた。また、あるときには、一人の男性が何かつぶやきながら、小屋の所まで来るが、大きな声も出さないし、こちらになにか話しかけるでもない。怪しい雰囲気だけを残して彼は隣の小屋に消えていった。僧か何かでお経を唱えていたのか、それとも何か呪いでもかけていったのか、結局何だかわからないまま、食事待ちの時間を利用して、船に乗ることになった。30分ほどの湖のクルーズ、こわごわ足を浸してみる。生暖かいけど、心地よい。まだ香草に慣れないけど、魚は美味しい。外は30°Cを優に超える暑さであったが、水上で食べると結構涼しく、なかなか趣深いものがあった。

2009年2月22日(日) プノンペン 14:30

Sokhom が仕事を終え、義父宅に戻ってきたところを見計らい、お宅にお伺いする。奨学金の話をするのが目的であったが、時間がなく、短時間の訪問で辞去することになったが、フルーツ(まさに家の庭で獲れたマンゴーも)を頂き、1週間前に生まれたばかりの子犬の赤ちゃんも触らせてもらい(Brianが自分のケータイでツーショットを撮っているのが印象的だった)、和んだところでサヨナラになってしまった。Sokhom の家は川沿いにあるが、対岸のバラック小屋のような家と対照的な光景が広がっていた。

⁸ ちなみに、ヤフーで「Tonle Bati」を検索すると私たちのツアーブログが7番目にヒットしてくる。

⁹ てっきり、トンレサップ川だと思っていたが、帰国後調べてみたら湖だった。



(左：マンゴーの木と戯れる塚本先生 右：対岸の家)

このあと、一行はプノンペンに戻り、Youth Star の若い先生たちとの懇談をされ、翌朝のツアー（オールドマーケット訪問、Oudong 訪問）を楽しまれるのだが、私は翌朝には出勤するべく、辻先生とともに、一行を離れ、プノンペン空港に向かっていった。その後のバンコク、スワンナプーム空港での悪戦苦闘! の顛末は前号に書いたので割愛したい。また、その後の旅については他の方からの報告にゆだねることとする。

今回の旅では様々な人の「生きる」姿を目の当たりにした。日本でも不況の波の中、必死に生きている人はたくさんいる。ただ、ある程度ルーティン化した暮らしの中、電車の中でくたびれたスーツ姿を見ているだけではなかなか伝わってこない。貧しいながらも、明るく、マイペースに、それでいて必死に暮らしている人の姿に元気もらった旅であった。

英語話せる？！

山田昌子



3月7日（土）。日本からやってきた大学生のKくん¹⁰が最初North Beach（写真参照）に滞在していたので、先日、一緒にNorth Beachのレストランで夕食をとることになった。ちょうど私が教育実習をしているクラスの生徒C君が、あるレストランで働いているというので、そこに行くことにした。メインストリートから少し離れているせいか、安くて入りやすいという地元民のコメントももらい、夜8時くらいに到着。パスタとピザを一つずつ注文し、二人でシェアすることにした。日曜の夜なのに、お客は少なく、あまり

流行っていない店のようだった。

イケイケ姉ちゃん風（といったら失礼かな?!）のウエイトレスがやって来たので、「C君が働いていると思うけど」と尋ねたら「そんな人知らないわ」とそっけない言葉。「働いていない筈はないわ。こうしてこのレストランのビジネスカードももらったんだから。彼は私の教育実習の生徒なのよ。」「じゃあ、働いているってということね。」「キッチンで聞いてみて」「わかったわ」しばらくして彼女が戻って来て「C君はもう帰ったみたい。皿洗いしている、英語の話せない人よ。」言い方がとても冷たい！英語が話せることがそれ程エライことなのか!? って叫びたくなった。「彼は今一生懸命勉強しているわ。とっても素晴らしい生徒よ!」と思わず私は言った。英語の話せない住民はサンフランシスコには数少ない。C君がラティーノだから差別意識からそう言っているのか?! 皿洗いだからか?! 初めてのレストランで、私はそれ以上は言えなかった。

実際North BeachはLittle Italyとも呼ばれ、イタリア人が多く、イタリアンレストランに入っても、英語が通じないことは少なくない。Chinatownの中国人が英語が苦手、Missionのラティーノがスペイン語しか話せないのと似ている。今日、一度入ってみたかった、別のイタリアンレストランに行ってみた。暖かい日だったので、戸外のテーブルに座ることにした（写真参照）。外で案内をしているおじちゃんに、「このSpecial House Vegetarian Pasta」のソースは何? トマトソース?」と尋ねると、イタリア語でいろいろ言ってみても私に通じないことがわかると、寂しそうに「英語はあまりできないんだ。中の人に聞いて来るね」。そこで、私が「私だってイタリア語できないからね」と言ったら、ニコツとしてくれた。



最近のTESOL¹¹では、ESL¹²/EFL¹³の学生をMultilingual Studentsと呼ぶ。つまり、L2 learnersは英語のproficiencyに限りがあるというように否定的に見るのではなく、むしろ母語を含め複数の言語使用ができ

¹⁰ ACROSS、e-dream-s メンバーのIさんの息子さん。

¹¹ Teaching English to Speakers of Other Languages

るので、multicompetentだ¹⁴と見る見方が主流になっている。私のクラスのメキシコ出身の生徒数名は、スペイン語だけでなく、マヤ語もできる。現在は英語も少し話せる。私が勉強しているMATESOLプログラムでは、英語しか知らないESL/EFLの教師は駄目だと、“Second Language Acquisition”のクラスをとる時外国語のクラスもとることが義務づけられている。

C君はアメリカにもう6年いるという。Beginningのコースなので、英語で詳細を話すのは難しいようだが、推測するに、ひょっとしたら皿洗いの仕事は不法就労なのかもしれない(?)、だから他の従業員からバカにされ、小さくなって働いているのかもしれない。英語ができたらいり返すことだってできるだろう。教室でも、よくしゃべるメキシコ人の生徒たちに比べると、彼は静かで母語のスペイン語ですらあまりしゃべらない。数日前、Garage Saleのトピックのレッスンの後、Tシャツ、シャツ、スウェットを英語でどういふかC君に個人的に教えたら、うれしそうにしていた。「これは何と云うの」とノートを指さした。基礎単語も知らないという事実、私はもっとslow learnersに目を向けなければいけないと反省！翌日の朝、彼は、他の生徒(チャイニーズ)に英語の単語を尋ねていた。こんな意欲的な彼は初めてだ。頑張れ、C君、あんなイケイケ姉ちゃんなんかふっとばせ！

¹² English as a second language

¹³ English as a foreign language

¹⁴ Cook, V. (1993). *Linguistics & SLA*. New York: St. Martin's Press.

またまた歯のトラブル発生

山田昌子

4月4日（土）。せっかくの週末だというのに、どこにもいけず、美味しいものも食べられず、美味しいお酒も飲めず、悲しい週末を迎えることになりました。

以前から具合が悪かった歯のお陰で、この1か月位ウイルスにやられ、歯茎が腫れていました。抗生物質を飲んでも完治せず、逆に薬がなくなると再度ウイルスに感染し、別のところが腫れる始末。放っておくと、体中にウイルスが移動し、大変なことになるそうです。異国の地にいるせいか、また歯の治療にお金がすごくかかるせいか（お給料がないと経済的不安は大きいです！）、不安ばかりがつのります。

この歯は渡米前からなんとなく調子が悪く、日本の医者に言ったら「治療したからそんな筈はない」と取り付く島無し。また1年前歯茎が腫れ、specialistのDr. Fにroot canalをしてもらいましたが、それでも不安な感じは残っていました。

アメリカはdentistとspecialistが異なっていて、こんな場合診断しどうすべきか判断、治療してくれるのはspecialistです。彼に診断してもらうだけで、\$150かかります¹⁵。

診察の結果、Dr. Fは、surgery又は抜歯を勧めましたが、費用の面¹⁶で相談すると「なんとか帰国する7月までもつかな」と言いました。その言葉にすぎる思いで、2回目の抗生物質を飲みました。それでも治らず、再度「薬をくれ」とdentistのDr. Mに言うと、薬をくれず、surgeryを勧められました。散々悩んだ末、昨日surgeryをしてもらうことにしました。でも、1時間もかかるsurgeryだと聞いて、ドキドキ。アポの3時半に着いていましたが、それから1時間程待たされました。一層ドキドキ。

surgeryの直前、Dr. Fが「歯自体がウイルスに感染していてcrackしているようなことがあれば、surgeryはできない、ウイルスの感染をとめるには歯を抜くしかない」と言われました。割れているところにウイルスが入り込んでいけば、ウイルスを全部とれないのでsurgeryの意味がないというのです。Dr. Fは、仕事上言っておかないといけないという使命で告げたのでしょうが、私はまたまた不安になりました。きっと青い顔をしていたのでしょう。彼は一生懸命「リラックスして！緊張しないで！大丈夫だから」と患者を慰めてくれました。

果たして、歯茎を切って歯の下層部の悪い部分を取るsurgeryの途中、その歯はウイルスに感染していて、crackし、その上骨も溶かされているのが判明。麻酔をしているとはいえ、局部麻酔ですから、Dr. Fがアシスタントに「典型的な例だよ」と言っているのが聞こえます。鏡で見せられると、surgeryの準備のため歯茎を一部切っているの、まるで断面図のようでした。よくわからないけれど、問題の歯は、隣り

¹⁵私の students 用の optional insurance ではカバーできないため; dentist の場合は insurance でカバーできるので無料; 勿論 insurance によって異なる。

¹⁶ surgery は \$1,200。つまり日本に帰国するフライト費用と同じか、少し高額。

の歯とは違うのはわかりました。surgeryは中止。即、その歯を抜くことになりました。（surgery前は、抜くなら来週かなと言っていたのに、すぐに連絡をとってくれ）麻酔が効いているその日にやった方が患者への負担が少ないという判断でしょう。

アメリカでは、dentistとspecialistは別なだけでなく、またまた歯を抜く専門の医者がいるのですね。surgeryを中止したら、別のclinicに歩いて移動（同じdental groupでやっているようです。初めて知りました）。

別のspecialist Dr. Tがにこやかにやってきて、歯を抜くのは一瞬でした。日米のスキルの違いを見せつけられたみたいです（とはいえ、Dr. TはChinese American、Beijingにdental officeを持っていると言っていました）。specialistになればお金もかかるし、大変だけれど、その分野ではスキルを磨いていて、短時間で治療し、患者に肉体的にも精神的にも負担をかけないようにしているのでしょう。

ちなみに、surgeryは\$1,200と言われていたのに、surgery中止だったせいか、Dr. Fの方は \$150、Dr. Tの方は \$250 でした。これからimplanting などをしていないといけないので、またお金がかかるかなあ???でも、この数年、悩まされて来た歯のトラブルがこれでなくなるなら、まあいいっか?!

一夜明け、今はまだ歯茎が痛むし、腫れがひどい状態です。週末は、スープやジュース、ヨーグルトのようなものしか食べられません。また、予約をとる時から「この週末はどこにもいかないように!」と言われていましたが、この状態ではそんな元気もでてきません。来週は、student-teachingをしているCity College of San Franciscoが春休みで授業なし。SFSUの授業は、水曜と金曜のみ。休養にはもってこいです。とはいえ、卒業がかかっているportfolioの提出が水曜だし、金曜は全員4-5分間の発表があたっているので、勉強を休む訳にはいきません。ベッドで休養しながら、ぼつぼつやろうかと思っています。復活まで、あと数日の辛抱です!

<編集後記>

通信 100 号まであと 2 号となりました。設立 10 年を迎え、「国際社会への貢献プロジェクト」が「カンボジア英語教育支援プロジェクト」として形になりました。会のさらなる発展の兆しに心躍らせ、自分自身も含め、全会員がしっかりと考え共に歩む 1 年になることを望みます。(道面和枝)